

平成 30 年度 SSTA 西日本ブロック特別研修会 愛媛大会 実施報告

- 1 日 時 平成 30 年 8 月 3 日 (金) ～5 日 (日)
- 2 会 場 公立学校共済組合「にぎたつ会館」
愛媛大学教育学部附属小学校
- 3 参加人数 講師 1 名 SSTA 財団・本部 5 名
支部長・事務局長等 22 名 研修員 61 名
総計 89 名
- 4 講 師 日本体育大学教授 角屋重樹先生
- 5 研究主題 生活科・理科で育成する人間性
～「生命」領域の学習を通して育まれる「見つめ直し・柔軟性」～
- 6 研修について



(1) 研修日程

1 日目 (3 日)	2 日目 (4 日)	3 日目 (5 日)
13:00 受付	7:30 朝食	7:30 朝食
13:30 開会式	9:00 学年別研修Ⅲ	9:00 全体会Ⅲ 最終報告
14:00 全体会Ⅰ	12:00 昼食 (弁当)	10:45 指導講話 角屋先生
15:00 講演 角屋先生	13:00 学年別研修Ⅳ	11:30 閉会式
16:10 学年別研修Ⅰ	14:30 全体会Ⅱ 中間報告	11:50 事務連絡・解散
17:30 移動・入室	16:30 道後めぐり研修 (夕食は各自)	
18:30 懇親会	20:00 学年別研修Ⅴ	
21:00 学年別研修Ⅱ	20:30 事務局会議Ⅱ	
21:30 事務局会議Ⅰ		

(2) 研修の具体

① 愛媛支部提案の概要

<生命領域で研究する理由>

- ・ 生命領域は、生命を尊重する態度といった人間性を育む上で必要不可欠な領域である。
- ・ 1 年次山口大会ではエネルギーと粒子領域で、2 年次広島大会では地球領域で人間性を育む授業の在り方を協議してきたため。

<人間性とは……>

子どもの持つ感性が豊かに生まれ表出した姿

- 授業場面における子どもの感性が表出した場面 (具体的な子どもの姿) の共通理解
- 授業の中に子どもの感性が触発される状況を組み込む

<子どもの感性が触発される状況とは……>

- ・ 飼育や観察、実験を振り返り、その内容や行為を自ら見つめ直している状況
- ・ 新たな見方で対象を見つめ、いろいろな側面から柔軟に考えている状況

これらをベースとして、愛媛支部が作成した指導案をもとに、以下の点について検討を行った。

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 本単元で育てたい人間性 | 3 本時に注目する感性が表出している姿 |
| 2 単元計画 | 4 本時の展開 |

② 各学年部会でのまとめ

【生活科部会】 「いきものだいすき」

＜本単元で育てたい人間性＞

☆ 相手（自然・他者）の立場に立って考える姿

単元構想として第0次として「学びの種まき」を組み込んだ。「学びの種まき」とは、朝の会のスピーチ等の時間で生きものに対して”自分の思いや願い”を抱かせることである。そのためには普段から教師が第0次を意識して言葉掛けをしていく必要がある。また第1次以降は、相手の立場に立って考えることのできる「環境設定」と「教師の言葉掛け」が大切になってくる。

【3年部会】 「チョウのひみつ発見ーチョウを育てようー」

＜本単元で育てたい人間性＞

☆ 友だちとの関わりを通してチョウの成長に寄り添い、生命を見つめ直し、柔軟に問題解決を図ろうとする姿

これまで避けて通られてきた、アオムシコマユバチの寄生や蛹化不全などの“チョウの死”と子どもが真摯に向き合うことで、願う「生命を尊重する姿」に近付くことをねらう。単元構想の時点で教師が“チョウの死”を意識して構想をもっておくことで、実際にチョウが死んでしまった場合に、その死を効果的に取り上げ、子どもの人間性の育ちにつなげていくことができる。

【4年部会】 「人の体のつくりと運動」

＜本単元で育てたい人間性＞

☆ 自分の体のつくりの巧みさを知ることで自分のからだに愛着がわいてくる姿

☆ 視点を持って見つめ直すことでヒトと他の動物との共通性をとらえる姿

☆ 自分も含めたかけがえのない生命を尊重しようとする姿

自分の体のつくりについて学んだ後、動物の体のつくりと運動について調べる。その際、常に自分と比較しながら「共通点」「相違点」という視点で見つめることで、様々な動物の体のつくりの巧みさを知り、自分も含めたかけがえのない生命を尊重しようとする気持ちを高めていくことができる。

【5年部会】 「命！誕生の不思議ーメダカの学校大作戦ー」

＜本単元で育てたい人間性＞

☆ 飼育方法を見つめ直し、見いだした問題の解決方法を柔軟に発想したり、試行したりする姿

☆ メダカの発生や成長を見つめ直し、生命の連続性や巧みさに気付く姿

☆ プラクトンの存在意義やその生態を見つめ直し、生き物を多面的に捉えている姿

これまでは”メダカのエサ”として観察をしていたミジンコに焦点を当てる。ミジンコをじっくり観察しているとエサを食べたり糞をしたり出産をしたりと、正に生きている様子に直面する。そのような気付きを共有し、改めて納得するまで観察することで、ミジンコも生きているという見方の変容につながっていく。

【6年部会】 「人や動物の体」

＜本単元で育てたい人間性＞

☆ 様々な臓器の働きを見つめ直し、臓器が相互に働き合いそれぞれが役割を果たすことで生命を維持していることに気付く

☆ 自身の生活を見つめ直すことで、生命を尊重する気持ちや健康の保持、増進への意欲をもつ

心臓の働きについて、灯油ポンプを使ってモデルを作成する。心臓のモデルを制作する中で、心臓のつくりや弁の役割を見つめ直し、モデルを使って血液を一定方向に送り出す心臓の仕組みを柔軟に推論する。そして、心臓が要となって全ての臓器が連携し合っていることに気付き、改めて自身の体を見つめなおすことができるようになる。

【中学校部会】 「いろいろな生物とその共通点」

＜本単元で育てたい人間性＞

☆ 分類することの良さに気づき、生物相互の共通点や相違点及び生物を分類するための観点や基準を見つめ直し、表現する姿

☆ 仲間と情報を共有しながら協働的に学ぶことで、自然に対する見方を柔軟にし、広げていく姿

☆ 形に意味があることに気づき、生物を見つめる目が磨かれることで、生命の美しさに心動かされたり、その神秘に感動したりする姿

次期学習指導要領で実施される新単元である。各自が観察した観察カードで図鑑を作り「図鑑の目次を作ろう」と呼びかけることで、分類の必要性が芽生える。分類の際には子どもの思いを尊重し、形・色・レア度などの視点のもと「共通点」「相違点」を見付け、思考ツールを活用して分類する。このような学びを保障することで、生物を見つめる目が磨かれ、生命の美しさに心動かされたり、その神秘に感動したりする姿が見られるようになる。

